

## U.S. Indicators

マクロ経済指標レポート

米国 サービス価格の上昇がCPIコアを押し上げ(05年3月消費者物価) 発表日: 05年4月20日(水)

～インフレ圧力の川上から川下への波及は限定的ながら宿泊費が急上昇～

(No. UI - 012)

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治(かつらはた せいじ)

(03-5221-5001、4518: [seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp](mailto:seiji@dlri.dai-ichi-life.co.jp))

消費者物価 (Consumer Price Index)

	消費者物価											
	消費者物価		コア		エネルギー	飲食料品	住宅	アパレル	運輸	医療	商品コア	サービスコア
04/03	+0.4	(+1.7)	+0.3	(+1.6)	+2.2	+0.2	+0.3	+0.8	+1.3	+0.5	+0.1	+0.4
04/04	+0.2	(+2.3)	+0.2	(+1.8)	+0.3	+0.2	+0.3	0.1	+0.0	+0.3	+0.0	+0.3
04/05	+0.6	(+3.1)	+0.2	(+1.7)	+4.3	+0.7	+0.3	+0.3	+1.8	+0.3	+0.1	+0.2
04/06	+0.3	(+3.3)	+0.2	(+1.9)	+1.7	+0.2	+0.3	0.1	+0.5	+0.3	0.1	+0.2
04/07	0.1	(+3.0)	+0.1	(+1.8)	2.4	+0.3	+0.3	0.5	1.1	+0.3	0.2	+0.3
04/08	+0.1	(+2.7)	+0.1	(+1.7)	0.3	+0.0	+0.1	0.3	0.3	+0.3	0.1	+0.1
04/09	+0.2	(+2.5)	+0.3	(+2.0)	0.3	+0.0	+0.3	+0.0	+0.2	+0.3	+0.3	+0.3
04/10	+0.6	(+3.2)	+0.2	(+2.0)	+4.0	+0.5	+0.2	+0.0	+2.1	+0.4	+0.2	+0.2
04/11	+0.3	(+3.5)	+0.2	(+2.2)	+1.0	+0.3	+0.3	+0.2	+0.2	+0.3	+0.1	+0.2
04/12	+0.0	(+3.3)	+0.2	(+2.2)	1.3	+0.0	+0.2	0.4	0.7	+0.3	+0.0	+0.2
05/01	+0.1	(+3.0)	+0.2	(+2.3)	1.1	+0.1	+0.1	+0.3	0.2	+0.4	+0.3	+0.2
05/02	+0.4	(+3.0)	+0.3	(+2.4)	+2.0	+0.1	+0.4	0.2	+0.8	+0.6	+0.0	+0.3
05/03	+0.6	(+3.1)	+0.4	(+2.3)	+4.0	+0.2	+0.5	+0.8	+1.9	+0.5	+0.0	+0.5

(出所) 労働省 (Department of Labor)

(注) 数字は季調済前月比。但し、( )内は前年同月比(未季調)。

**総合が前月比 +  
0.6%、コアが同  
+0.4%**

05年3月の消費者物価(総合)は、エネルギー価格の上昇により前月比+0.6%と市場予想の同+0.5%を上回った。エネルギー価格は、ガス・電力が同0.3%と低下したものの、ガソリン価格が同+7.9%(+3.2%)に加速したため、同+4.0%のプラスとなった。一方、エネルギー・食品価格を除く消費者物価(コア)は、宿泊費等サービス価格の上昇により同+0.35%と市場予想の同+0.2%を上回った。川上での価格上昇に伴う価格転嫁の影響が出やすい商品価格(コア)は2月に続き3月も前月比横這いとなったことから、原材料価格上昇の消費者物価への波及は限定的なものにとどまっている。しかし、NY市内の高級ホテルがコンドミニアムに改装される動き等によってホテルが減少するなかで、ドル安に伴い海外からの観光・買い物客が増加しホテルの宿泊需要が強まり上昇率が高まったとみられる。

トレンドを示す3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率でも、商品コアが+13%(前月+14%)に鈍化した一方、サービスコアが+31%(同+25%)と伸び率が高まっており、消費者物価コアはサービス価格中心に上昇圧力が強まっている。

**連鎖CPIコア  
は、前年比+1.9%**

前年比での各種消費者物価をみると、総合が+31%(2月+30%)と前月から加速した。しかし、コアは+23%(同+24%)と伸びが小幅鈍化した。より実態の物価動向を示す連鎖CPIコアでも、+1.9%(同+2.0%)と小幅鈍化しており、上方バイアスがかかっている通常のコア指数よりも0.4%程度低い伸びにとどまっている。さらに、連鎖指数よりも実態を示し、FRBが物価動向をみる指標として重視している個人消費コアデフレーターは2月に+1.6%と連鎖指数よりも0.4%程度低い伸びにとどまっております安定している。3月の個人消費コアデフレーターは連鎖指数から推測すると+1.5%前後への鈍化が見込まれる。このように、より信頼度の高い消費者物価統計の

上昇率はF R Bが物価の安定と考えている前年比+1~+2%のレンジ内で推移している。

### エネルギー・食品 を除く商品価格 (コア)は2ヵ月 連続で前月比横這 いにとどまった

財・サービス別では、エネルギーを除く商品価格(コア)は前月比+0.0%(2月同+0.0%)と横ばいにとどまった。アパレルが同+0.8%(同-0.2%)とプラスに転じた。一方で、自動車では、中古車・トラックが同+0.1%(同+0.1%)と前月と変わらずとなったが、販売促進のためインセンティブが拡大された新車が同-0.4%(同+0.1%)とマイナスに転じたため、全体でも同-0.1%(同+0.1%)に低下した。タバコも同+0.1%(同+0.4%)と鈍化した。

エネルギーを除くサービス価格(コア)は、前月比+0.5%(2月同+0.3%)と前月から伸びが加速した。医療費が同+0.5%(同+0.6%)、教育費が同+0.5%(同+0.5%)となるなかで、テレホンサービスが同-0.1%(同+0.3%)と低下した。一方、ウェートの大きい帰属家賃が同+0.3%(同+0.2%)、賃貸料が同+0.3%(同+0.2%)、ホテルなどの宿泊費が同+3.9%(同+1.1%)、公共交通が同+1.3%(同+0.0%)と前月から加速した。

### 川中の生産者物価 (最終財)コアは 上昇傾向に

今後に関しては、川上でのインフレ圧力を示す原材料(コア)が3月に16.1%(2月33%)と下落幅が拡大していること、中間財(コア)に2ヵ月程度先行する仕入価格指数(I S M製造業景気指数)が2004年4月をピークに低下傾向を辿っていることから、川上段階でのインフレ圧力はピーク時から徐々に弱まっている。しかし、商品・原油価格が足下で高値から低下したとはいえ、月間では3月の水準から一段と上昇している。今後も世界的な景気拡大持続に伴う供給不足懸念や、過剰流動性を背景にエネルギー価格の高止まり、或いは上昇が続く可能性が高く、商品価格も高止まりする可能性がある。このため、原材料価格(コア)も再び上昇に転じると見込まれ、生産者物価(最終財)も現状程度の上昇が続く可能性が高い。

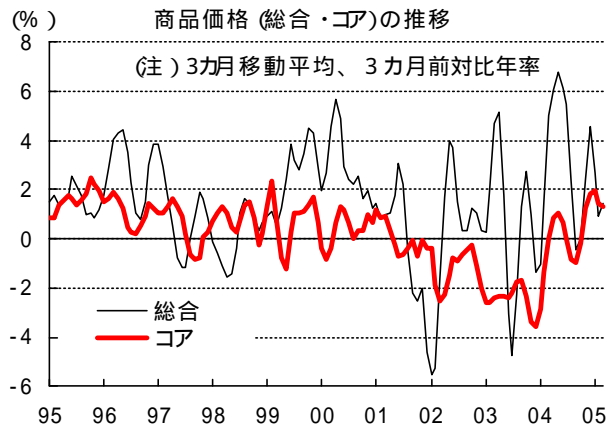
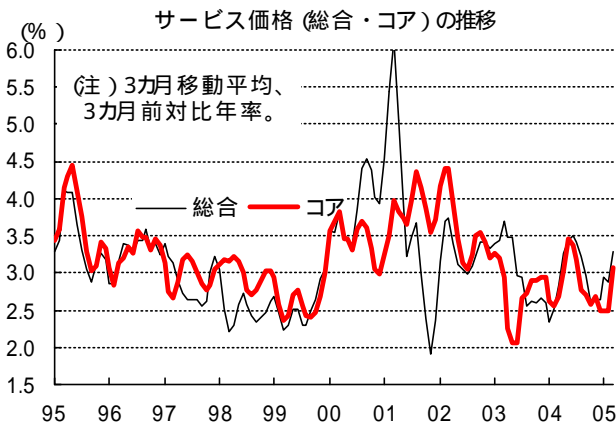
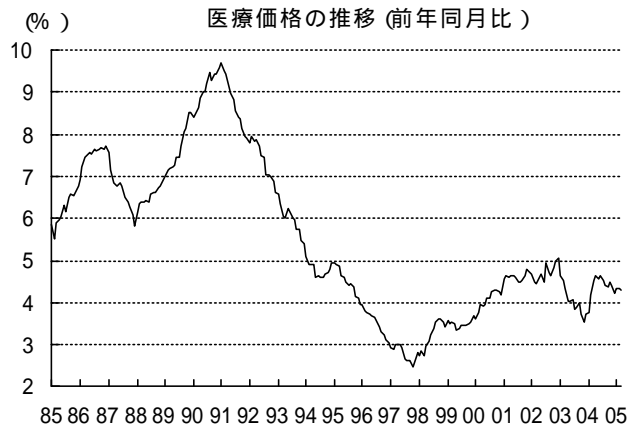
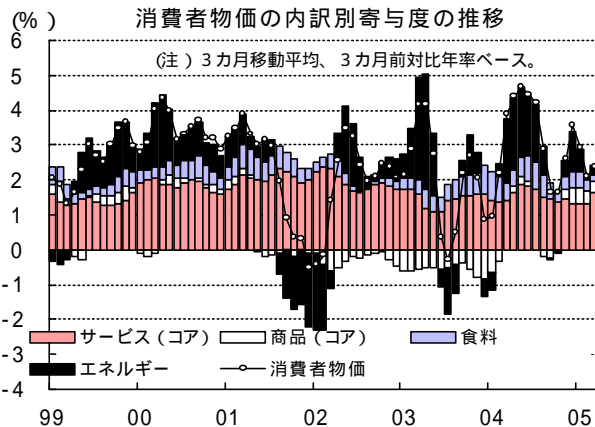
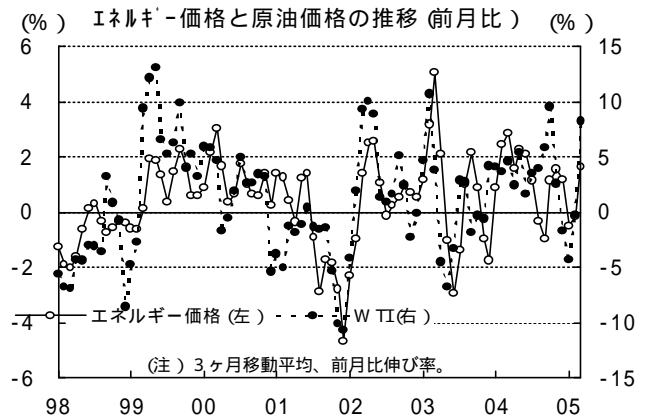
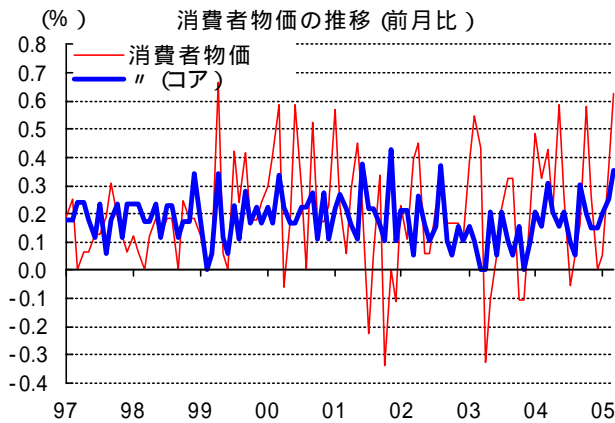
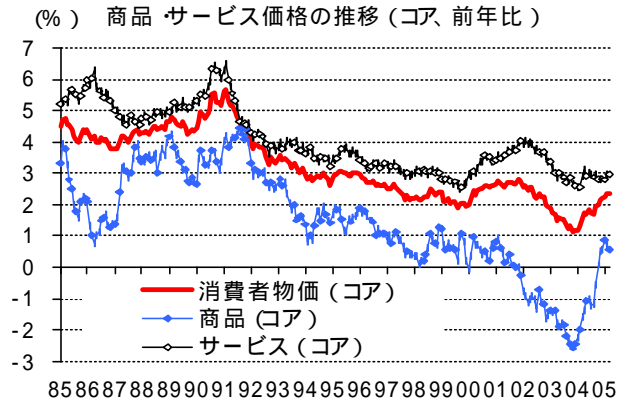
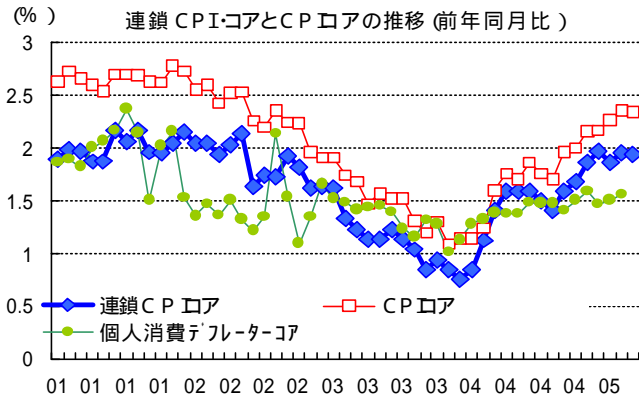
### 消費者物価への波 及は限定的なもの に

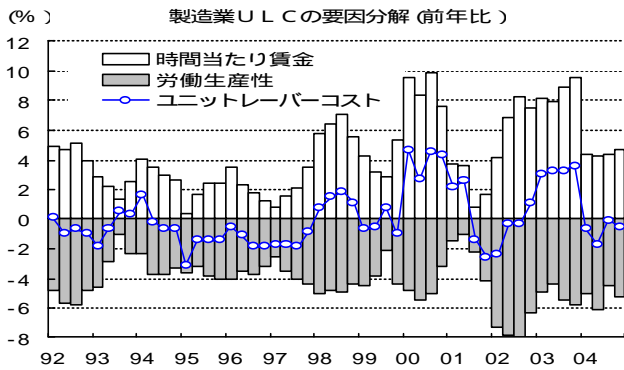
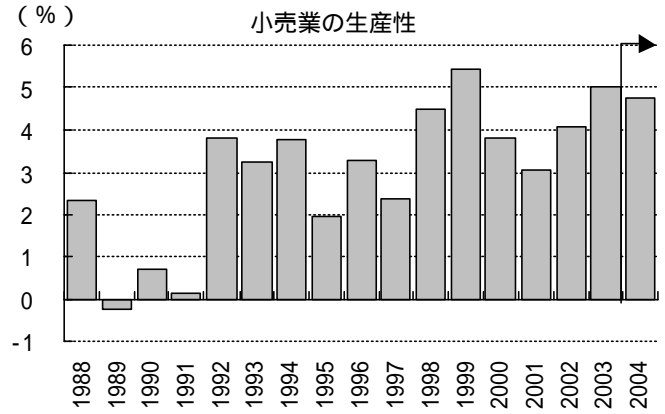
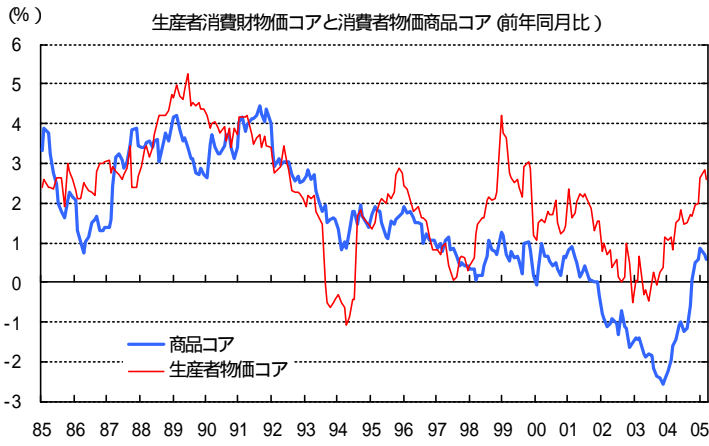
もっとも、製造業では数量効果、情報化投資やリストラクチャリング等による生産性の向上、利益率の改善などによってコストの増加をある程度吸収できるとみられる。さらに、前年比では物価押し上げ圧力が限界的には縮小することから、最終財価格コアの上昇ペースが急激に加速するのは避けられよう。

消費者段階での物価動向に関しては、短期的には宿泊費等サービス価格の上昇が続く一方、3月に販売が鈍化した衣料品の価格やインセンティブの拡大が続く新車価格が財価格を押し下げることで、前月比での物価上昇が抑えられるとみられる。

中期的には、価格を抑制する要因として競争激化が挙げられるが、今後も強まることであっても緩和する状況にはない。企業はコスト増加の影響を軽減するために、効率化等の動きを続けざるを得ないことから、雇用者数の増加ペースや賃金上昇が抑制されるとみられる。雇用の拡大ペースが抑制されれば、消費者の低価格志向が続くと見込まれ、小売段階での価格抑制圧力が強い状況が続こう。このような情勢のもと、ICTタグの導入などによって小売業の生産性向上は今後も続くとみられ、99年以降価格転嫁率が低下している状況に変化が生じる可能性は小さい。

以上のように、消費者段階での価格転嫁は限られたものにとどまる一方、サービス価格の上昇が続くとみられることから、消費者物価コアは前年比で+2%台前半での推移が予想される。





以上